

ミスミ校正サービス

●ミスミ校正サービスとは？

測定工具・検査工具の機器校正および、各種証明書を発行するサービスです。
ISO9000シリーズの取得、監査に必要な校正に関わるコストを大幅に削減いたします。

ミスミ校正サービス

速い!

実働10日目発送

国内最大級の校正設備と計量士を含めた専門技術者により実働10日で行います。
Ⓧ土曜・日曜・祝日は実働日に含まれません。

便利!

メーカーを問いません

国内外全てのメーカーに対応(インチは対応不可)できます。また、1個から無料回収いたします。



**サービスについてご不明な点は、
お気軽に下記までお問合せください!**

ミスミ校正サービスQ&A P.1047

ミスミ「校正サービス」質問窓口

ミスミにコール
☎ **0120-343256**

(受付時間 AM8:00~PM8:00 日曜、年末年始を除く)

Ⓧ当サービスは部品の交換・修理は行っていません。

●ミスミ校正サービスのご利用方法

ステップ①

回収希望日をQCTセンターまでご連絡ください。

QCTセンター

☎ **0120-343-066**



ステップ② 校正依頼品を無料回収

お電話の翌日以降に専用ドライバーが、回収にお伺いいたします。
「校正サービス発注書」(P.1042)を回収日当日までにご準備ください。

- Ⓧ送り状の記入は、専用ドライバーが行います。
- Ⓧ商品が30cm×50cm以上の大きさになる場合はお客様にて、段ボールをご用意ください。
- Ⓧ「校正サービス発注書」に不備のある場合、出荷日が遅れてしまう場合がございます。必ず所定の用紙にご記入の上、お送りください。



ステップ③ 納期・単価のご確認

商品を確認後、納期・単価を「ご注文確認書」にてFAX回答いたします。
校正依頼品到着後、実働10日目に出荷いたします。

月	火	水	木	金	土	日
校正依頼品 回収日	ミスミ着 (単価・納期を回答 いたします。)	実働1日目	実働2日目	実働3日目	休日	休日
実働4日目	実働5日目	実働6日目	実働7日目	実働8日目	休日	休日
実働9日目	実働10日目 校正依頼品 出荷日	Ⓧ土曜・日曜・祝日は実働日に含まれません。				

校正価格表

校正サービス ハイトゲージ 型番 TR-HG



No.	測定範囲 (mm)	¥単価		基本校正点数	校正点
		機器校正			
300-1	L ≤ 300	2,900		5点以下	0、50、100、150、200、300mm
600-1	300 < L ≤ 600	9,900		5点以下	0、100、200、300、500、600mm

校正サービス シリンダーゲージ 型番 TR-SG



No.	測定範囲 (mm)	¥単価		基本校正点数	校正点
		機器校正			
300-1	L ≤ 300	2,900		3項目	指示誤差(1/10回転、1/2回転、2回転、全測定範囲)、隣接誤差、戻り誤差、繰返し精密度の性能検査

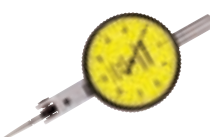
◎指示器は、対象外とさせていただきます。

校正サービス ダイヤルゲージ 型番 TR-DIG



No.	測定範囲 (mm)	¥単価		基本校正点数	校正内容
		機器校正			
25-1	L ≤ 25	1,900		4項目	・指示誤差(1/10回転、1/2回転、2回転、全測定範囲)、隣接誤差、戻り誤差、繰返し精密度の性能検査
50-1	25 < L ≤ 50	4,900		4項目	
100-1	50 < L ≤ 100	7,900		4項目	

校正サービス テストインジケータ 型番 TR-TI



No.	測定範囲 (mm)	¥単価		基本校正点数	校正内容
		機器校正			
0.14-1	0.14	1,900		4項目	・指示誤差、隣接誤差、戻り誤差、繰返し精密度の性能検査
0.2-1	0.2	1,900		4項目	
0.5-1	0.5	1,900		4項目	
0.6-1	0.6	1,900		4項目	
0.8-1	0.8	1,900		4項目	
1.5-1	1.5	1,900		4項目	

校正サービス デジマチックインジケータ 型番 TR-DTI



No.	測定範囲 (mm)	¥単価		基本校正点数	校正内容
		機器校正			
12-1	12	1,900		4項目	・指示誤差(1/10回転、1/2回転、2回転、全測定範囲)、隣接誤差、戻り誤差、繰返し精密度の性能検査
25-1	25	1,900		4項目	
50-1	50	1,900		4項目	

校正サービス プロクタ 型番 TR-PRO



No.	測定範囲 (mm)	¥単価		基本校正点数	校正点
		機器校正			
180-1	L ≤ 180	11,900		3点	10度、90度、170度

校正サービス シックネスゲージ 型番 TR-THG



No.	測定範囲 (mm)	¥単価		基本校正点数	校正点
		機器校正			
5-1	L ≤ 5	600		3点	・リーフの末端20mmを除外した長さ方向にほぼ等間隔に先端付近を含めた3点の校正 ・リーフタイプが対象

◎シックネスゲージ1組中の、リーフ1枚当たりの単価になります。校正希望のリーフ(サイズ)をご指示ください。

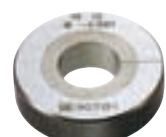
校正価格表

校正サービス ピンゲージ 型番 TR-PING



No.	測定範囲 (mm)	¥単価		基本校正点数	校正点
		機器校正			
10-2	1 < L ≤ 10	1,200		3箇所	・中央、両端付近の3箇所(X・Y)の校正

校正サービス リングゲージ 型番 TR-LG



No.	測定範囲 (mm)	¥単価		基本校正点数	校正点
		機器校正			
50-2	L ≤ 50	4,900		3箇所	中央、両端付近の3箇所(X・Y)の校正
100-2	50 < L ≤ 100	7,400		3箇所	中央、両端付近の3箇所(X・Y)の校正
200-2	100 < L ≤ 200	9,900		3箇所	中央、両端付近の3箇所(X・Y)の校正

校正サービス テーパゲージ 型番 TR-TG



No.	測定範囲 (mm)	¥単価		基本校正点数	校正点
		機器校正			
15-1	1 < L ≤ 15	2,400		3点	先端付近、中間点付近、最大点の3点
30-1	15 < L ≤ 30	2,400		3点	

◎円錐タイプは、対象外(対応不能)です。

校正サービス 直尺 型番 TR-SR



No.	測定範囲 (mm)	¥単価		基本校正点数	校正点	
		機器校正				
150-1	150	4,810		両目盛6点	材質は、黄銅、ステンレス製に限定します。黄銅製の片目盛りは、片目盛り分の校正点数となります。	
300-1	300	4,810		両目盛6点		50mm間隔 100mm間隔
600-1	600	7,270		両目盛6点		200mm間隔
1000-1	1,000	7,270		両目盛10点		300mm間隔
1500-1	1,500	9,730		両目盛10点		400mm間隔
2000-1	2,000	9,730		両目盛10点		

校正サービス スコヤ 型番 TR-SQR



No.	測定範囲 (mm)	¥単価		基本校正点数	校正点
		機器校正			
100-1	100	19,000		内外3点	外側、内側の両端10mmを除去した長さを3等分し、下端を基準とした3点
150-1	150	19,000		内外3点	
200-1	200	19,000		内外3点	
300-1	300	19,000		内外3点	

Delivery 出荷日 **10** 日発送 ◎土曜・日曜・祝日は実働日に含まれません。

校正サービス ダイヤルキャリパゲージ 型番 TR-DCLP



校正サービス ダイヤルデプスゲージ 型番 TR-DDG



校正サービス デプスマイクロメータ 型番 TR-DM



校正サービス 三点マイクロメータ 型番 TR-TPM



上記4点の測定工具につきましては、別途お見積もりとさせていただきます。商品到着後、ご注文確認書にて単価・出荷日をご回答いたします。基本校正点数、校正点に関しましては別途お問い合わせください。

ISO監査に必要な校正文書

●校正文書

①校正成績表

校正成績表には、下記の内容を記載いたします。

- 発行No.
- 校正機関名
- 校正年月日
- 校正項目
- 被校正機器
 - 品名
 - 型式
 - 製造者
 - 製造番号
 - 校正点
 - 校正結果データ
 - 特記事項



▲校正成績表

②校正証明書

校正証明書には、下記の内容を記載いたします。

- 発行No.
- 依頼者名
- 被校正機器の品名、型式、製造番号、製造者
- 校正機関名
- ISOの要求事項である校正が国家標準にトレーサブルであることの証明の宣言文
- 校正に使用した標準器の管理番号、品名、製造者、機器番号
- 校正証明書の発行日
- 標準温度

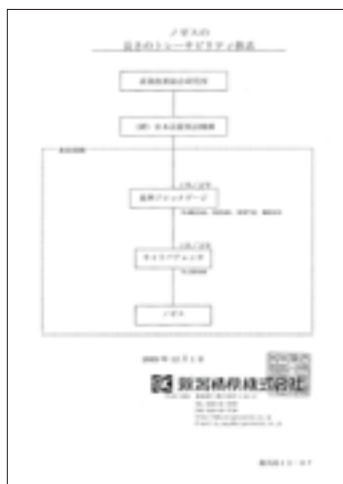


▲校正証明書

③トレーサビリティ体系

トレーサビリティ体系には、下記の内容を記載いたします。

- 被校正機器の品名
- 被校正機器を校正した標準器が国家標準機関等にトレーサブルまでの経路をチャートに表した体系図
- トレーサビリティ体系の発行日
- 校正機関名



▲トレーサビリティ体系

④上記文書3点セット

校正成績表、校正証明書、トレーサビリティ体系3点セットです。ISO監査においてはこの3点の文書が必要となります。

ミスミ校正サービスQ&A

Q1 校正とは…?

- A1 JIS Z8103には「標準器、標準試料などを用いて機器の表す値とその真の値との関係を求めること」となっており、機器の表す値と標準器等の値との差(一般的には器差)がどの程度かを求めることです。従って校正とは、一般に調整は含まれないことになります。尚、校正の結果で調整を行うことがあれば、再度調整結果後の校正が必要となります。
①弊社で調整(修理)は行っていません。

Q2 合否判定は誰が…?

- A2 合否判定は、校正結果の器差が管理精度を満たしているかを判定することであり、計測機器を管理している部署が規定した管理精度を標準として、校正結果を判定する必要があります。
①弊社で合否判定は行っていません。

Q3 トレーサビリティの確保とは…?

- A3 JIS Z8103にはトレーサビリティとは「標準器、計測器がより高位の測定標準によって次々と校正され、国家標準・国際標準につながる経路が確立されていること」となっており、使用する計測機器がより上位の標準器により校正され、その標準器はさらに上位の標準器で校正され、最終的には国家標準・国際標準につながっていることです。ISO9000の要求事項「検査・測定及び試験装置の管理」では計測機器を社外校正する場合は、その社外校正より成績書はもちろんトレーサビリティが確保されている証明(校正証明書、トレーサビリティ体系図等)を確認・入手し、記録として残す必要があります。

Q4 計測機器の管理精度はどのように決める…?

- A4 使用する計測機器の管理精度は測定項目、測定対象の必要精度、計測機器自体の精度を明確にしたうえで決定しなければなりません。即ち、測定、検査する被測定対象物がどのような状態(形状、硬さ…)か、製品規格上の許容差はどうか、又、計測機器の精度は、使用環境条件は、使用者の技術レベルは…等をひとつずつ確認し決定しなければなりません。従来から被測定対象物の必要精度の1/10くらいといわれていますが、米のANS規格では1/4が規定されています。但し、コスト面から常識的には1/3相当以上で良いと考えます。それでも困難な場合は補正したり、計測回数を多くして平均するような方法もあります。尚、実際には過去の校正結果データにより決めたり、新たに校正を行いその校正結果データにより決めたり、経験者の判断により管理精度を決めている例も多いようです。必要以上(例えば、購入した計測機器の精度仕様)に管理精度を厳しくすると精度維持にコストがかかり経済的にも大変です。

Q5 計測機器の校正周期はどのように決める…?

- A5 計測機器の校正周期は、企業で生産される製品品質を決定する管理精度とともに重要な要素です。その周期の決定方法には、JIS Z 9090-1991「測定-校正方式通則(付属書1)」の論理的算出方法もありますが、よく使用されているISO10012-1規格「付録A測定装置の間隔決定のためのガイドライン」の方法の考え方の一例を説明します。まず、計測機器を扱った経験があり機器仕様を熟知した人が、使用頻度・使用環境条件および要求される精度を考慮して決定し(規格では技術的直感といっている。)次に決定した周期を、蓄積した校正結果データ(3回以上は必要)をもとに、校正費用にかかるコストと製品品質への影響の危険度から周期の延長、短縮をする方法です。但し、計測機器による「不良発生によるコスト」は「計測機器校正費用」に比べて遥かに大きく社会的な影響が計り知れないことを考え慎重に決定することが必要となります。又、それが品質管理、計量管理に携わっている者の手腕でもあります。

Q6 QS9000における計測機器の管理はどのようなことが必要…?

- A6 QS9000とはご存知のようにISO9000シリーズ(以下ISO9000sという。)では飽き足らなくなった(不十分だと考えた)自動車メーカーであるアメリカのビッグ3(クライスラー、フォード、GMの3大自動車メーカー)がALAG(自動車産業アクショングループ)というひとつの共同チームを作り、ISO9000sをベースに作った規格です。計測機器の管理にしていえばISO9000sはご承知のように、文書類がそろっていればパスします。技能のチェックが入っていません。それがもの足りないということです。広い意味でいえば技能についての条項はISO9000にも入っていませんが、厳密な意味では技能の追求はされていません。それで、QS9000を作ったということです。QS9000規格の中の4.11.2.b.1項が校正・試験に関する規定で、ここでISO/IEC17025(ガイド25の改定版)に適合した校正機関を使うこととされています。日本国内ではそれに満足する機関は、現在のところ計量法トレーサビリティ制度の認定事業者か、JABでの17025を認定された数社(いずれも、ある要素・範囲に限定)しかありません。
①弊社はQS9000規格には対応していません。